

平成26年度 十日町・中魚 生活部 活動報告

部長 近藤 哲夫

1 研究主題

生活科・総合的な学習に活かせる中魚・十日町地域の素材の開発
～郷土のよさを知る体験活動～

2 研究の概要

教育振興計画では、今後目指すひとつづくりの姿として「ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとつづくり」が挙げられている。「ふるさとへの愛着心」を育てることがキーポイントになっている。この「ふるさとへの愛着心」を育てる学習は生活科・総合的な学習における地域学習が重要な鍵となってくる。

そこで、今年度は津南町にある農と縄文体験実習館「なじよもん」を会場として、施設を紹介していただき、施設の利用の仕方や郷土のよさを体験する活動について、実習を通して学ばせながら学ぶ機会とした。

3 研究の実際

4月24日 郡市教振委員総会

会場 中央公民館

内容 組織作り 事業計画作り

6月6日 役員会

会場 教育会館

内容 全員研修会の計画 役割分担

8月22日 郡市教振全員一斉研修会 総合・生活部会

会場 農と縄文の体験実習館「なじよもん」

内容 ①学芸員による館内の紹介

②「草木染め」「和紙のうちわづくり」の2コースに分かれて実習

4 成果と課題

農と縄文の体験実習館「なじよもん」は、津南町の主な産業である「農業」と重要な文化遺産である「縄文時代」をキーワードとして津南町の歴史的な自然環境を守り、後世に伝えていくための館である。実際に管内に入ったり体験活動したりしたことのある教員はわずかであった。屋外の縄文村にある竪穴住居にも入れていただき、説明していただいたことはとても有意義であった。

実習は「和紙のうちわづくり」と「草木染め」の2コースに分かれての実習であった。地域の指導者の方がどのコースも丁寧に教えてくださった。

今後は各自が学校に戻り、この施設の授業への生かし方、有効な利用方法を考えていきたい。